

LNG 二元燃料ケープサイズバルクキャリア “CAPE HAYATE” 引渡

ジャパン マリンユナイテッド株式会社(本社：神奈川県横浜市、社長：灘 信之)は、5 月 30 日(木)、津事業所(三重県津市)にて建造していたLNG二元燃料ケープサイズバルクキャリア(“N210BC-DF”) “CAPE HAYATE” (ケープ ハヤテ)を引渡しました。

本船は、川崎汽船株式会社殿向けに建造し、JFE スチール株式会社殿向けに投入される計画の大型バルクキャリア(ばら積み運搬船)です。ケープサイズバルクキャリアでは、LNG を主燃料とする二元燃料ディーゼル機関を搭載した新開発、同社向けの1番船です。

従来燃料である重油の代わりにLNGを使用することで、地球温暖化の原因の一つであるCO2の排出量を従来比約25%~30%削減することができます。また、国際海事機関(IMO)の窒素酸化物(NOx)排出の3次規制に対応するとともに、船舶のGHG排出に関するエネルギー効率設計指標(EEDI)においても、規定される基準値に対し40%以上の削減率を達成しており、世界最新鋭のケープサイズバルクキャリアとなっています。

【本船概要】

主要寸法 : 全長 299.99m x 幅 50.00 m x 深さ 25.00 m x 喫水 18.436 m
載貨重量 : 210,870 トン
総トン数 : 110,439
主機関 : DU-WinGD 7X62DF-2.1 x 1 基
航海速力 : 14 ノット
定員 : 25 名
船級 : NK
船籍 : 日本(神戸)

【特徴】

- 船体の水面下は当社最新型の重油焚き船の低抵抗・高効率な最適船型を維持し、併せて当社独自開発の省エネデバイスである“LEADGE-Bow®”(船首部)、“SURF-BULB®”(以下、船尾部)、“ALV-Fin®”を装備、“SSD®”を最適化、“Twisted Rupas 舵”を採用することで、高い燃費性能を実現しています。
- 燃料ガス調整室、LNG燃料タンクを居住区から船尾側に配置することで、重油焚き船と同等の貨物容積を確保し、高い輸送効率を実現しています。
- 主機は、WinGD 最新デザインとなる二元燃料電子制御エンジン 7X62DF-2.1 を採用し、iCER (Intelligent Control by Exhaust gas Recycling)を装備して、燃費性能の向上、温室効果ガスであるメタンスリップの低減を図っています。
- 低圧型の主機を採用することで、発電機、補助ボイラを含めた燃料ガス供給装置をシンプルにすることができ、機器の省スペース化や省電力化を図っています。
- 主機の他、発電機、補助ボイラを二元燃料仕様とすることで、クリーンなLNG燃料を最大限使用し、また燃料LNGがタンク内で自然蒸発して発生するN-BOG (Natural Boil Off Gas)を無駄なく利用することができます。
- 上記に加えて、川崎汽船殿にて開発、今後、本船に搭載が予定されている、風力を利用した自動カイトシステム”Seawing”によって更なる環境性の向上を見込んでおります。

弊社は今後も、経済性・環境性に優れた最新鋭のエコシップの開発・建造に努めてまいります。

(お問い合わせ先)

総務部広報グループ TEL : 045-264-7168/7164